



須坂市社会福祉協議会会長賞

『みなさまにたすけられて』

西 村 操 （広島県広島市）

或る日、ベランダのプランターに大きな青虫がたくさんいました。私は、青虫がとても苦手で、「わぁ～どうしよう・・・誰かにこの青虫をどうにかしてもらわなくては・・・」と、同じマンションの虫とか大丈夫そうなAさんを思い出して電話をしました。

そしたらご主人が出られ、生憎Aさんは夕方まで帰らないとのこと。ご主人とは面識がなく一瞬悩みましたが、思い切って「うちのベランダに青虫が発生して、私は青虫が苦手で、すみませんが、うちに来てプランターをゴミ袋に入れていけないでしょうか。」と、しどろもどろでお願いしました。

ご主人は、私の話が良くわからないという感じでしたが、直ぐに来てくださり、こともなげに青虫がいっぱいのプランターを両手でさげられ、私が「すみません、ベランダの手すりの内側と外側もしっかり見て、そこの火箸で青虫を捕まえて、そのゴミ袋に入れていただけますか。」と火箸とゴミ袋を指差しながらお願いすると、ベランダをしっかりと見て素手で青虫を摘ん

でプランターに戻されました。ご主人が「これ、どうしますか？」とプランターを指差しながら訊かれたので、「そのゴミ袋に入れてください。ゴミの日に自分で出しますから。」と答えると、「貰って帰ってもいいですか？」と言われたのです。

私はてっきり、青虫が苦手な私の代わりに捨てましょうかと言ってくださっていると思い、「いえいえ、自分で捨てます。」と言うと、「要らないのなら貰って帰って、青虫をふ化させて蝶にして、子どもに見せてやりたいのです。」と言われました。私は直ぐにはその言葉が理解できませんでした。が、その言葉を信じて、お持ち帰りいただきました。

夕方お礼の電話をしたら、Aさんはまだ聞いてなかったようで、ご主人にとって、帰宅した奥様にすぐに報告する程のことではなかったようで、Aさんにも「そんなことでわざわざ・・・」と言われました。

後日、頂き物の枝付きのさくらんぼをお礼かたがた持って行ったら、「何のこと？」と言われ「この前の青虫のお礼・・・」と言ったら、もうすっかり忘れられていました。

私にとっては「大事件」でしたが、幼稚園の先生をしていたAさんと、そのような方を奥様にするご主人にとって取るに足らない事のようにでした。

又、或る日、私は経管栄養剤の缶のプルトップで指をちょっと深く切ってしまい血が止まらず、焦りました。

その日は日曜日で、マンションの火災訓練の日でもありました。

「どうしよう・・・誰に助けに来てもらおう・・・」と、外科病院で受付の仕事をしている同じマンションのBさんに電話して、私は新聞を取っていないので、当番医の載っているBさんの家の新聞を持って来て、私の車で当番医に連れて行ってもらえないか、とお願いしました。

Bさんは、前日が忘年会で遅くまで起きていらしたのもかわらず、すぐ駆けつけてくださいました。

1番近い当番医に電話をして混雑具合や場所などを確認してくれ、Bさんが運転し慣れているご自分の車で行った方が良いとご主人が言われたそうで、Bさんの車で連れて行ってくれることになりました。

もうお一人、清也（私の子ども）に付き添っていただこうと、やはり同じマンションで小学校の図書ボランティア仲間のCさんに電話したら、その方もすぐに駆けつけてくださいました。

Bさんは、学生時代に重度の障害児の施設でボランティアをされていたこともある方で、冬のこの時期、外科と言っても当番医には風邪の人も来るかもしれないからと、清也を我が家で見えてくださるようには用意して来られていました。

又、Cさんは、指を怪我しては料理を作るのも難しいだろうと、その後数日、私が負担にならない程度におかずを作っ

て届けてくださいました。

主人が亡くなり、母一人子一人、おまけに子どもは重度重複
障害児、出かけるのもままなりませんでしたが、みなさまのお
陰でどうにか過ごして이었습니다。

